

研修医しぐさ



和歌山県医師会

〒640-8514 和歌山市小松原通1丁目1 県民文化会館

電話(073)424-5101 代 FAX(073)436-0530

E-mail: ishikai@wakayama.med.or.jp

平成31年2月発行

『行政医師は地域を診るお医者さん』

和歌山県福祉保健部技監(健康局長) 野尻 孝子 先生



“行政医師”というと、いかにも堅苦しい響きがあります。私も医師といえば聴診器を持ったお医者さんと思っていました。大学に入ってから公衆衛生の講義を受けても、どうもイメージできませんでした。ところが、家庭の事情や先輩からの誘いもあり、行政医師として勤務して早や28年が経ってしまいました。

行政医師は、厚生労働省や県庁、そして保健所などにおいて活動しています。厚生労働省では、法律や補助金の仕組みを作り、県庁では、それを受けて事業の組み立てや県独自に県民の命と健康を守るシステムづくりなど政策のグランドデザインを描き展開していきます。

保健所は、公衆衛生の拠点として地域保健法において必置の機関と位置付けられ、県立保健所は二次医療圏ごとに設置されていますが、地域の医師会や病院をはじめ各関係団体とネットワークを作り、県民の命と健康を守る第一線の機関です。その活動は一人の患者さんのみではなく、健康な住民も含む全ての県民を対象としています。

対象とする事象も、健康づくり、感染症、災害医療、医療安全、母子保健、高齢者、難病、精神保健福祉、食品衛生、薬事、環境衛生、動物衛生など幅広い業務を所掌しています。「ゆりかごから墓場まで」とも言われるように人の生涯の健康に係る仕事をしています。

また、地域保健法の基本指針において保健所は、「専門的広域的な地域の拠点」とされています。管轄地域には最大のパートナーともいうべき市町村があり、市町村と役割分担または重層的に住民へ専門的なサービスを提供します。

和歌山県の健康指標は、例えば平均寿命は男性全国44位、女性全国41位であり、全国の中で低位な状況にありますが、この課題解決を市町村とともに行うのも保健所の重要な業務です。市町村格差の解消も地域保健の要としての保健所ならではの役割といえます。これらは臨床の場では経験できないことです。私も保健所で多くのことを学びました。予防医学の実践の場は保健所にあります。

さて、私は22年間の保健所での勤務を経て現在、県庁で仕事をしていますが、関係機関はより幅広く、扱う事案はより深化しています。行政課題と絡めてその仕事をいくつか紹介しましょう。

昨今、保健医療を取り巻く状況はめまぐるしく変化しています。少子高齢化の進行による医療・介護費用の増大、都市と地方の格差、住民ニーズの多様化、高度化する医療、チーム医療の推進、ICT化、多発する災害への対応など課題山積です。

こうした中で、効率的・効果的な医療提供体制を目指し、病床機能の分化・連携を進める「地域医療構想」と、身近なところで人生の最期まで自分らしく過ごすために医療、介護など切れ目ないサービスを提供する「地域包括ケアシステム」の実現が求められています。理念はいいものの、実行となると非常に難しいものです。しかし、避けて通れない課題でもあります。これまで、どちらかという国が画一的に決めることが多かった医療施策が地域主体に変化してきた政策の一つと言えます。

この「地域医療構想」と「地域包括ケアシステム」に関係するのが、医師等の医療従事者の確保、健康づくりそして在宅医療の推進と人生最終段階の医療の在り方です。医師、看護師、リハビリ職は大学誘致などを行いましたので、確保は確実にされていきますが、本県では、医師の地域偏在と診療科の偏在が大きな課題です。この課題解決を図るため、2019年からは医療法に基づく県設置の地域医療対策協議会を活性化して取り組みます。

健康づくりはこれまでも健康指標を見える化し、課題を明確化し事業に取り組んできましたが、これからは施策を総合的に横展開して全県的に取り組むことが必要です。その一つとして県糖尿病性腎症重症化予防プログラムを各地域で実践展開していきます。

遠隔診療支援システムも医師の偏在とキャリア形成に効果的なものと考えています。在宅医療や健康づくりや重症化予防にも活かしていきたいと考えています。今後、医療情報の共有も含めICTはどんどん保健、医療、福祉分野に活用されるものと考えます。これこそ若い皆さんの知恵と活躍が期待されることです。

人生最終段階の医療については、ACP(アドバンスケアプランニング)の普及が重要です。これは救急医療とも密接に関係します。人生最終段階にどのようにしたいか、したくないのかとても難しい問題に踏み込むわけですが、これもまた避けて通れない問題です。

さらに、本県では3連動地震の発生が危惧される中、その対策の充実は喫緊の課題です。とにかく、日々努力すれど課題はてんこ盛りですが、やりがいのあることばかり。地域を診て取り組む。これが“行政医師”の仕事です。

「成育基本法とは」

子どもの健全な育成を保障するための社会的施策が立ち遅れている

母子保健医療体制の充実や子育て支援のための社会環境の整備が必要

少子高齢化対策

未来を担う子どもの健やかな成長を社会全体で支援することが少子化対策を一層強化する

乳幼児

学童

成人

「成育基本法」2018年12月8日成立

人の「ライフサイクル」の過程に生じる様々な健康問題を包括的に捉えて適切に対応する法律

母子

妊娠期から成人まで支援

妊娠期の母親の家庭支援から出産後の成長過程における切れ目のない医療・教育・福祉の支援が保障される社会

母子保健行政の縦割りを解消

子育てを孤立させず、子どもが心身ともに健やかに育つことが保障される社会

科学的知見に基づく子育て・食育

予防接種・健診記録のデータベース整備

子どもの死因を検証する体制

日本の未来を産み、育てる法律です

第30回 日本医学会総会 2019 中部

医学と医療の深化と広がり
～健康長寿社会の実現をめざして～

会頭 齋藤 英彦 (名古屋大学名誉教授)

学術
集会

2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウイングあいち

市民
展示

2019年3月30日(土)～4月7日(日)
ポートメッセなごや

学術
展示

2019年4月26日(金)～4月29日(月・祝)
名古屋国際会議場、ポートメッセなごや

医学
史展

2019年3月2日(土)～4月28日(日)
名古屋大学博物館

2019年度

和歌山県内病院の新規採用 研修医歓迎会のお知らせ

日時：2019年4月4日(木)夕刻～(詳細後日)
場所：ビッグ愛 12F

無料

主催 和歌山県医師会

◆日本医師会女性医師バンク◆

女性医師・男性医師・医療機関よりの求人・求職・ご相談に対応しております。成立時も**すべて無料**です。
常勤・非常勤・週1・2回・スポット勤務も対象。
電話番号は03-3942-6512です。お気軽にご相談下さい。

医師会研修医会費無料化について

和歌山市医師会・和歌山県医師会・日本医師会、すべて研修医期間**2年間は会費無料**です。

入会手順・お問い合わせ

和歌山市医師会事務局(073-435-5199)に「和歌山市医師会研修医会費について知りたい」とお伝え下さい。

和歌山市医師会 URL: <http://washii-unet.jp>

2018年 第14回 アイテム写真コンテスト ～はたらくすがた～



榎本 楓 小学校5年

「赤ちゃんを見る耳鼻科」

この写真は耳鼻科医である父が、赤ちゃんを診察しているところです。耳鼻科は耳や鼻の奥などを見て、病気があれば治します。私が鼻血を出したときもすぐに止めてくれます。このヘッドライトを使うと、こ膜まで観察できるそうです。普段家で見られる表情とは違い、働く姿はとも格好よく見えました。私も父のように大切な命と真剣に向き合える立派な医者になりたいと感じました。



私の推薦書

「読み応えのある一冊」

和歌山県医師会理事

西岡 正好

アトゥール・ガワンデ
死すべき定め

死にゆく人に向けてできるか
梶山文雄

Atul Gawande
Being Mortal

人類史上かつてないほど長命となった私たちは、終末期をどう生き、最期の時をどう迎えるべきなのか。誰もが免れない、老いと死の運命に迫るノンフィクション。
感動とともに人生観を変え、全米で30万部突破のロングセラー！
みずす書房